

大分都市広域圏 政策研究チーム 第3期未来創造塾の中間報告について



未来創造塾について

概要

若手職員による政策研究チームにおいて、圏域で抱える広域的な課題について自主的に調査・研究を行い、課題解決に向けた新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の提案を行うもの。

対象職員 : 概ね35歳以下の職員（各市町2名ずつ選出）

チーム編成 : 2チーム編成（8人ずつ）

任期 : 令和6年1月から令和8年3月まで

これまでの経過①

開講式（令和6年1月19日）

大分都市広域圏推進会議の会長である足立大分市長の開講宣言のもと、塾長（大分市企画部企画課広域連携推進室長）と7市1町の16名の塾生で構成される「第3期未来創造塾」を開講した。



辞令を受け取る由布市の佐藤さん



記念撮影



決意表明を行う臼杵市の橋さん

これまでの経過②

第1回塾生会議（令和6年1月19日）

開講式終了後、引き続き、第1回塾生会議を開催

塾長による「大分都市広域圏」
についての講演や塾生による
自己紹介を行った。



その後、塾生会議により、
リーダー、副リーダーが決定。

- 【A班】リーダー : 大分市 廣瀬さん
副リーダー : 臼杵市 橘さん
- 【B班】リーダー : 別府市 中田さん
副リーダー : 日出町 鳥井田さん

これまでの経過③

合宿（令和6年2月9日）

「ラフな雰囲気」で「塾生同士が打ち解け合う」を目的に合宿を開催

「研究テーマの検討につながるヒントの洗い出し」を目的に、ワールドカフェによるグループディスカッションを行った。



E B P Mの観点から、政策提案にどのような裏付けが必要かなど、事務局職員より説明を受けた。

これまでの経過④

ミニシンポジウム（令和6年7月24日）

豊後大野市役所でミニシンポジウムを開催

豊後大野市の川野市長より、「「持続可能な豊後大野市づくり」を目指して」と題して、豊後大野市の取組をご講演いただき、調査研究を進めるうえで貴重なアドバイスを頂いた。



これまでの経過⑤

ミニシンポジウム（令和6年7月24日）

川野市長の講演の後、第1期・第2期塾長・塾生による「パネルディスカッション」、第1期・第2期塾長・塾生と第3期塾生による意見交換を行った。



パネリストの元塾長・元塾生



元塾長・元塾生と現塾生で意見交換

これまでの経過⑥

定期的な塾生会議

随時、塾生による自主的な会議を開催し、
調査研究を進める

研究テーマの設定にあたっては、
課題ツリーを作るなど、各班で
工夫を凝らした。



研究テーマにおける現状や課題等
について、熱く議論。

今後のスケジュール

令和7年1月 : 先輩職員より講演

～令和7年3月 : 先進地視察

随 時 : 塾生会議や塾長ヒアリングの開催

令和7年11月 : 大分都市広域圏推進会議で政策提案

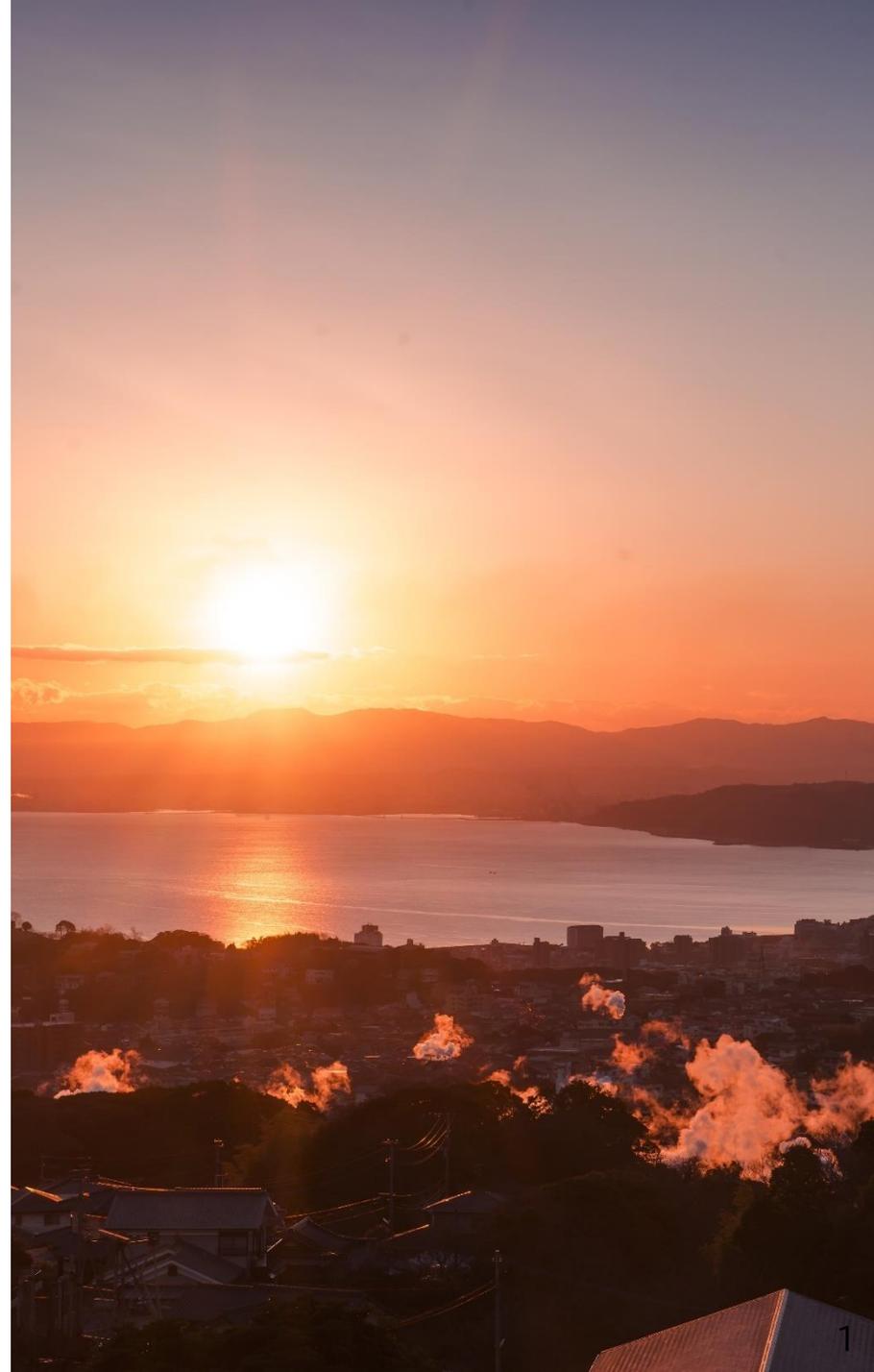
引き続き、調査研究を進めてまいります。

第3期未来創造塾（A班） 中間報告

大分市	廣瀬	秀志
別府市	甲斐	大地
臼杵市	橘	俊吾
津久見市	梶田	正法
竹田市	久良	伊武希
豊後大野市	橋本	卓
由布市	佐藤	亜美
日出町	小林	祐介

2024年11月22日

「Cre ∞ ita」



01 チーム名について

02 テーマ設定について

チーム名について

A班のチーム名はCre ∞ ita（クリエイター）に決定

チーム名設定理由

クリエイター

「Cre ∞ ita」



大分県内の**8**（エイト）市町で形成される大分都市広域圏で、連携を実施



近年の著しく変化する社会情勢について、**8**市町の職員で無限（ ∞ ）の可能性について調査・研究を実施



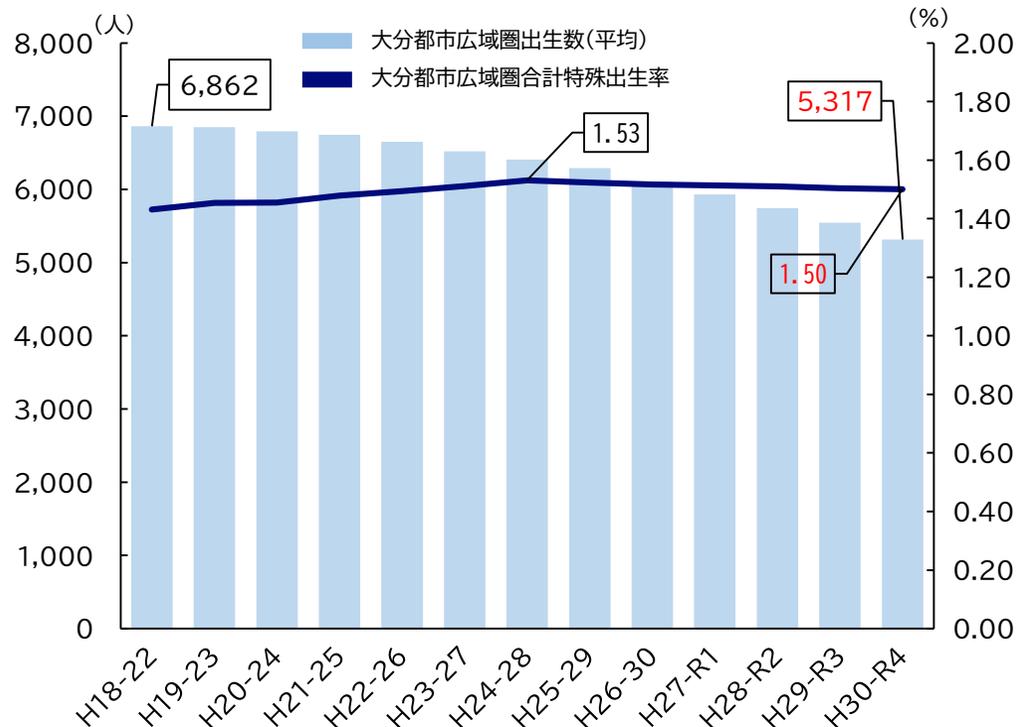
創造（クリエイト）する集団として、持続可能な政策立案を実施

テーマ設定について

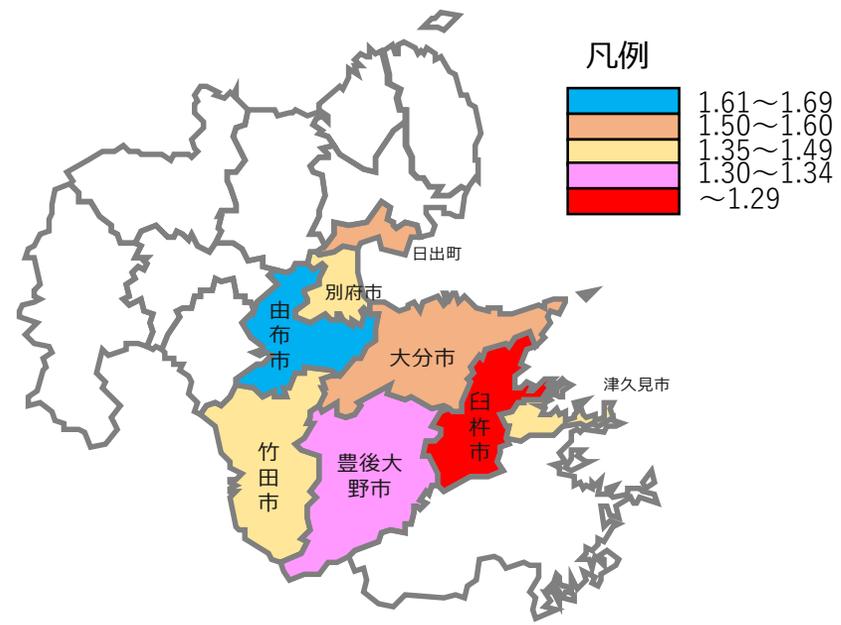
大分都市広域圏の中心課題は人口減少と捉え、テーマ設定を行った

- 合計特殊出生率（15歳～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの）は、減少傾向にあり微増減を繰り返し平成30年～令和4年の間では1.50となっている。
- 出生数をみると、減少傾向にあり、令和4年には、5,317人と、平成18年(6,856人)の**77.6%**の水準になっている。
- 現在の人口を維持するためには、合計特殊出生率が2.07以上を保つことが必要ななか、1.50であり人口減少は深刻化していることがわかる。
そのため、**中心課題を人口減少と捉え、テーマを設定**

出生数・合計特殊出生率の推移



令和4年大分都市広域圏市町別合計特殊出生率



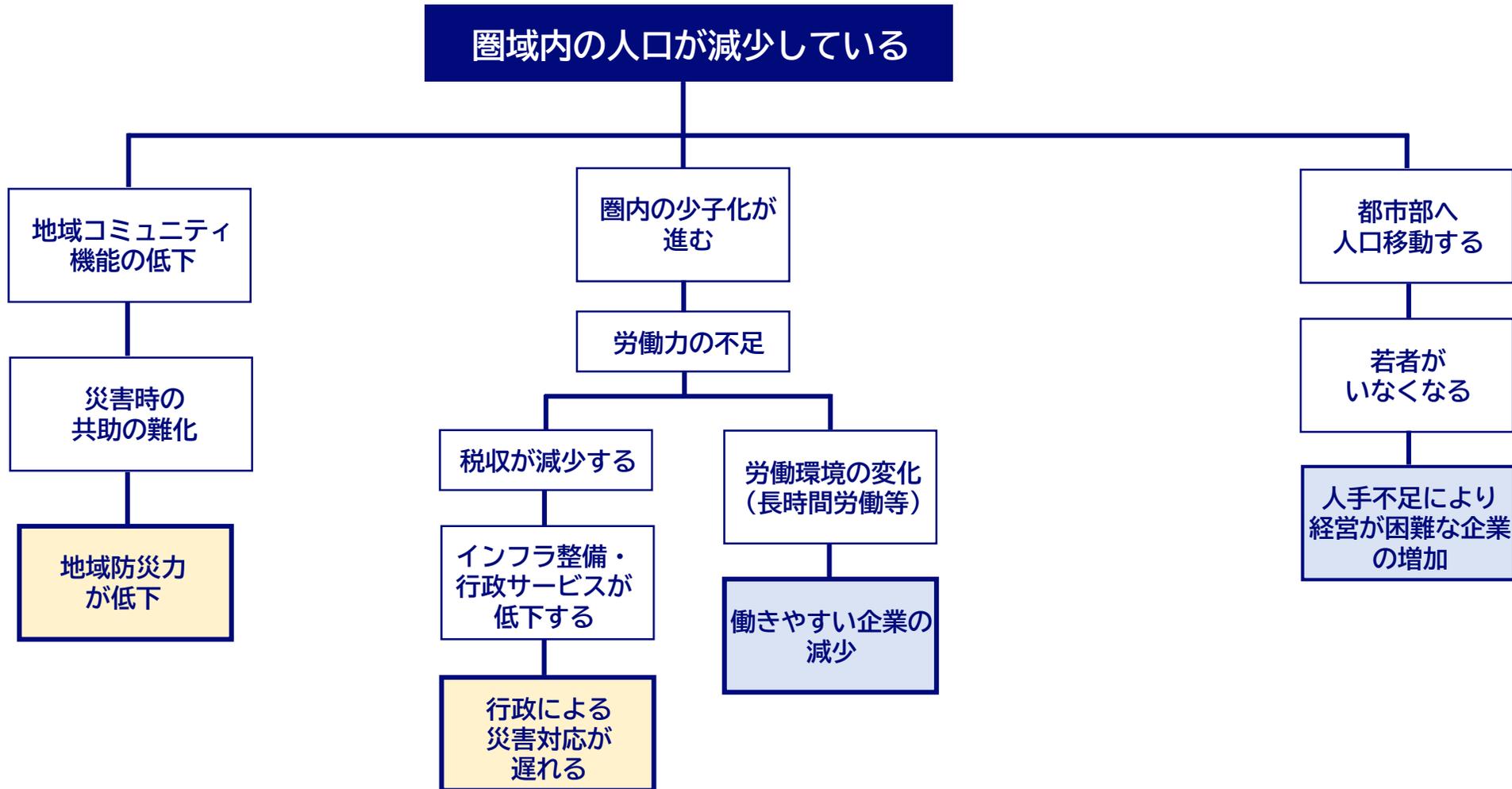
市町村名	合計特殊出生率
大分市	1.54
別府市	1.39
臼杵市	1.29
津久見市	1.35
竹田市	1.42
豊後大野市	1.34
由布市	1.61
日出町	1.55
大分都市広域圏平均	1.50
大分県平均	1.53

注) 合計特殊出生率については、出生数の少なさに起因する偶然性の影響のため、数値が不安定となる問題があり、5年間の平均として算出することにより、比較が可能な指標としている。
基準人口は、中心年10月1日現在の人口推計又は国勢調査

テーマ設定について

「雇用・就労」・「防災」をテーマとして設定

- 圏内の人口減少における各フェーズの課題を整理。「なぜ人口減少しているのか」の問いを繰り返し、テーマを見出した。
- 多くの意見が出た「**防災**」及び「**雇用・就労**」をテーマとして設定

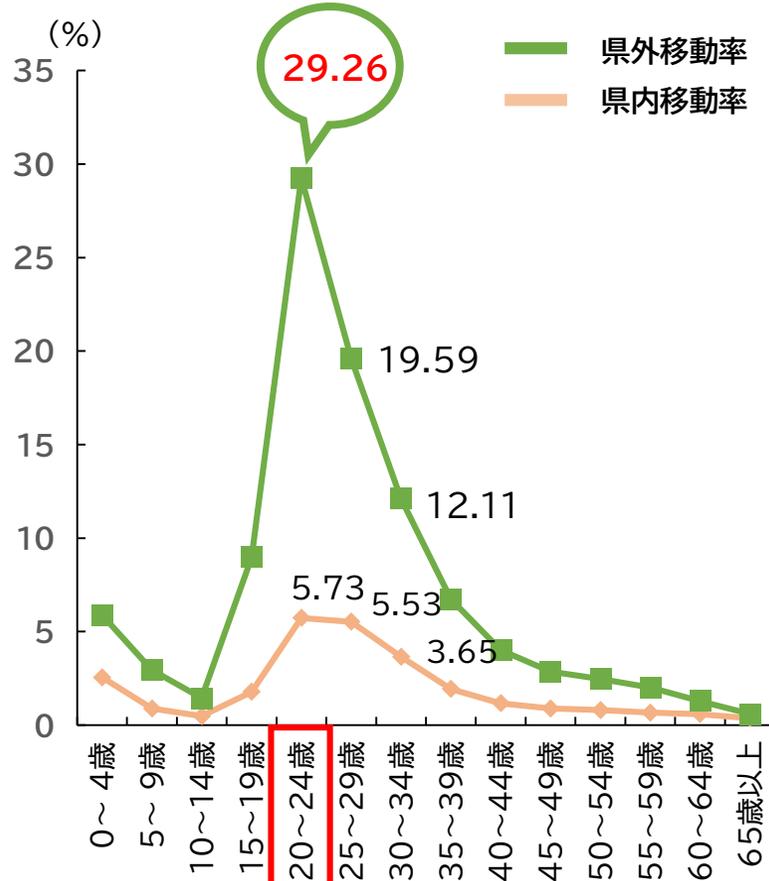


テーマ①雇用・就労について

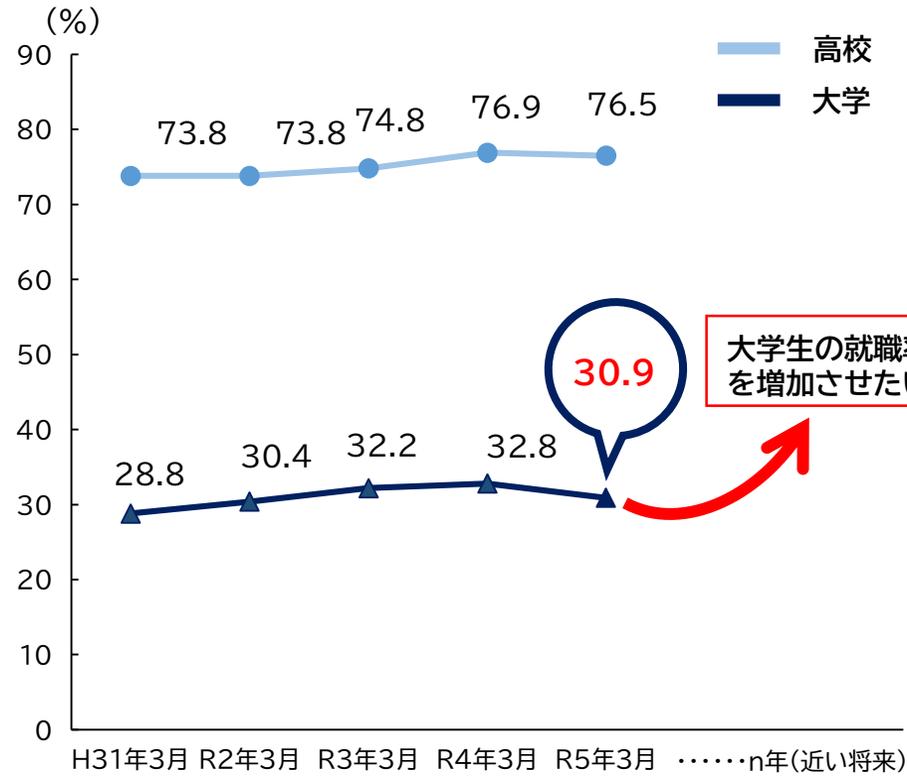
～現状と課題～

- 県内移動者・県外移動者ともに20歳代の移動が多く、特に県外移動者数は20～24歳が13,441人（県外移動率**29.26%**）で最も多くなっている。
- 大分県内に在学する大学生の県内就職率は、令和5年では**30.9%**と、高校生の76.5%と比較すると低調。
- 令和5年の大分県内4大学の県内就職率も大分大学を例に見ると1,143人中470人（41.1%）となっている。

大分県年齢別移動率(令和5年)

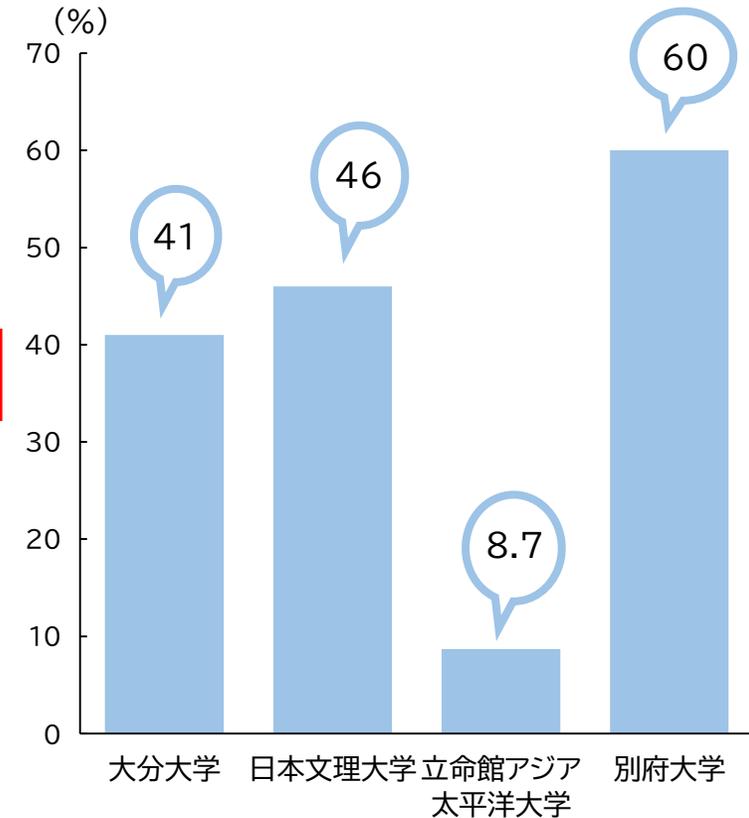


県内就職率の推移



(出所)大分県の人口推計報告令和5年版
令和5年度大分県新規学卒者実態調査報告書

県内大学別就職率(令和5年)



(出所)各大学HPより

テーマ①雇用・就労について

仮説

- 大学生は、地元就職を考えるきっかけが不足しているのではないか。
- 大学生は、圏域内の地場企業の魅力を見つけることができていないのではないか。
- 大学生は、地元就職を促進する既存の就職支援を上手く活用していないのではないか。



施策の方向性

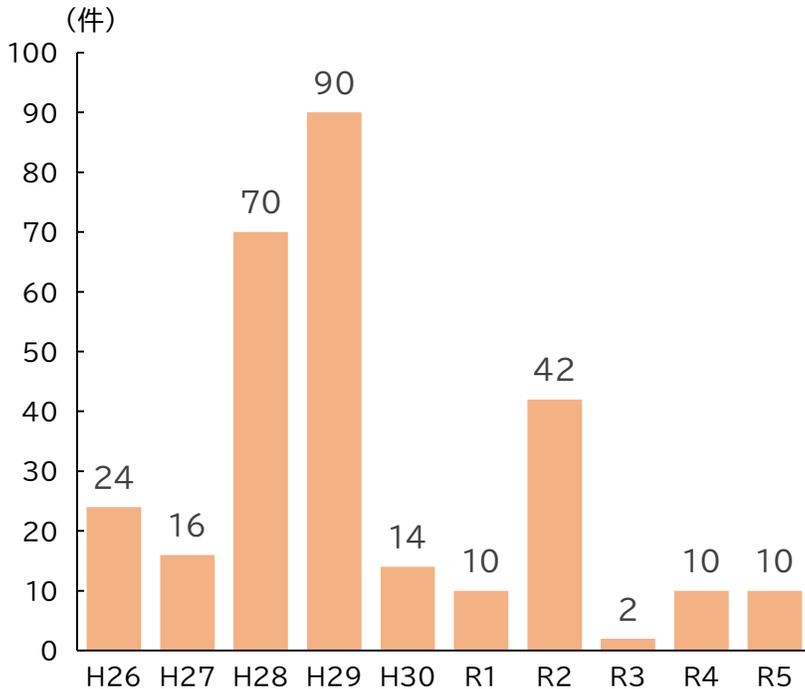
- [産][官][学]が連携し、大学生のより身近な場所で、圏域内の地場企業と触れ合える仕組みを検討
- 大学生が就職活動を行う際に、既存の就職支援に触れる機会を増やす仕組みの検討

テーマ②防災について

～現状と課題～

- 県内の土砂災害件数は平成26年～令和5年までの10年間で289件発生している。また、土砂災害の恐れのある箇所は23,250件と多くなっている。
- 要対策箇所の土砂災害対策施設整備率は約30%に留まっている。
- 県民意識調査の結果では、「災害に関する情報の迅速で確実な伝達」を求めている住民が多い。
- 人口減少が進むなか、限られた人員・資源で効果的な対策が必要となっている。

土砂災害発生件数



土砂災害対策施設整備率 (R6.3月時点)



県民意識調査

⑤防災・減災対策

1位対: 災害時の物資備蓄や避難所などの防災拠点の環境整備

1位対: 災害に関する情報の迅速で確実な伝達 (54.5%)

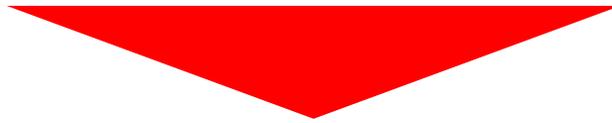
3位: 自力での避難が困難な方の支援体制づくり (38.7%)

(出所) おおいたの砂防 (令和6年度) 大分県 県民意識調査

テーマ②防災について

今後の研究の進め方

- 大分県及び圏域内における既存の防災対策や今後の展開について情報収集を行う。
- 防災分野等の専門家にヒアリングを行い、圏域内における課題の洗い出しを行う。



現状及び課題を改めて整理し、施策の方向性を設定して政策提案を行う。

【ヒアリング候補】

- 大分大学 減災・復興デザイン教育センター（CERD）
- 熊本大学 ましきラボ

ご清聴ありがとうございました





TEAM NOCTAS!

第3期 未来創造塾 (B班)

政策立案
中間報告

令和6年11月22日

New
Creative
Solution

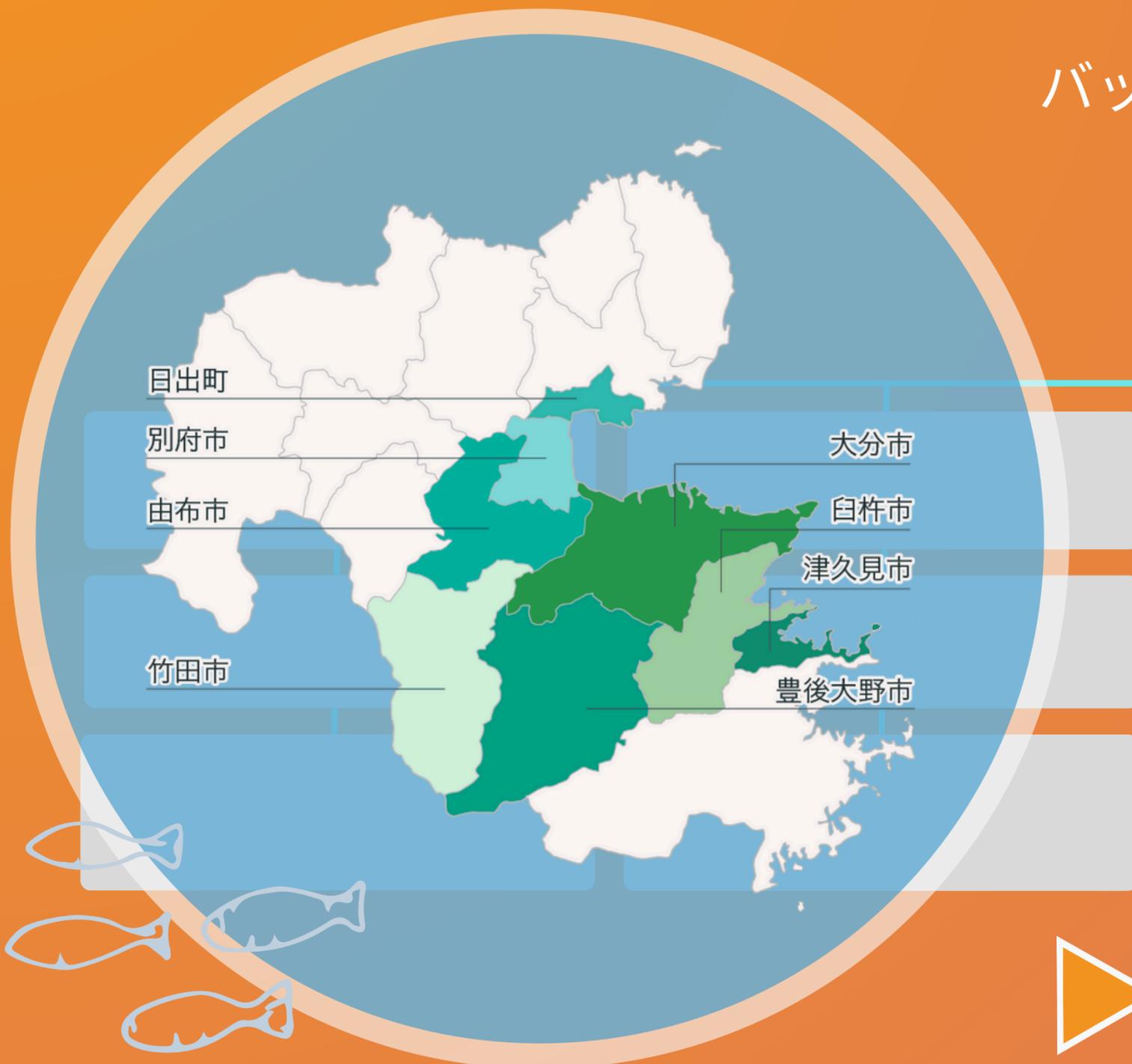
新しい
創造的な
政策提案を

Oita



現状分析

【困難に直面している人】に向けた政策立案を



バッドエンド

地域の消滅

中心課題

地域が衰退する

定住・関係人口が減少

出生数の減少

愛着・関心がない

子育てが不安

地域の魅力が
知られてない

支援が不十分

テーマ1：
地域の魅力発信

テーマ2：
子育て支援の充実

Q1.行ってみたい都道府県は？

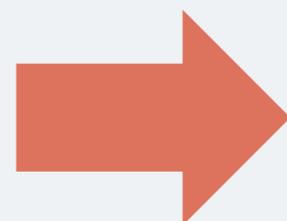
	都道府県
1位	北海道
2位	京都府
3位	沖縄県
36位	大分県

出典：地域ブランド調査2022調査概要

Q2.行って良かった都道府県は？

	都道府県
1位	大分県
2位	鹿児島県
3位	北海道
4位	岩手県

出典：じゃらん宿泊旅行調査2023



一度来てもらえたら、継続的に
来てもらえるポテンシャルを秘めているのでは...



関係人口と地域住民の協働による地域の活性化

＊地域住民が圏域の魅力を伝える

現状分析

分析 1

地域の独自性が失われる

- ・ 地域資源の継承が担い手不足により困難

分析 2

地域経済の縮小

- ・ 地元商業やサービス業の維持が困難

分析 3

地域コミュニティ機能の低下

- ・ 社会機能が低下し、地域生活が不安定に

今後検討していきたいこと

圏域外の住民と地域住民との持続的な関係性を構築するため、

- ・ 圏域の地域資源（伝統・食文化など）を伝える体験プランを策定し、新たな人の流れをつくる。
- ・ 地域住民による継続的に訪れてもらうための受入体制を整備。

Q1.居住地の子育て環境や支援への満足度

満足している	11.8%
概ね満足している	53.6%
あまり満足していない	24.7%
満足していない	7.7%

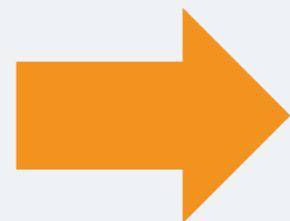
Q2.住んでいる地域の子育て環境や支援に満足していない理由

子育てを支援する施設やサービスが不足	57.4%
こどもが安心して遊べる場所が少ない	48.8%
親子で気軽に出かけられる場所（居場所）がない	47.0%
医療費や保育料などの経済的支援が不足	45.0%

Q3.理想よりも子どもの数が少ない理由

お金がかかりすぎる	71.1%
仕事が忙しい	26.7%
これ以上、子育ての心理的・肉体的負担に耐えられない	24.1%
高年齢で産むのは嫌だから	18.3%

出典：大分県福祉保健部こども未来課「令和5年度 こども・子育て県民意識調査報告書」



行政サービスの充実により、さらに満足度が向上し、金銭的負担や心理的・肉体的負担が軽減できるのでは...



▶ さらなる子育て満足度向上に向けた子育て支援サービスの拡充

＊市民が市民の子育てサポート

現状分析

分析 1 **支援に満足していない**
・ 支援施設やサービスが不足している

分析 2 **理想の子どもの数より少ない**
・ 金銭、心理、肉体的負担が上位

分析 3 **出生数が減少している**
・ 子育てに不安を抱えている人が多い

今後検討していきたいこと

子育て満足度をさらに高めるため、「かゆいところに手が届く」きめ細かな子育て支援の充実に向けた検討。

THANK YOU

ご清聴いただきありがとうございました。



第3期 未来創造塾 (B班) TEAM NOCTAS!

大分市市民課
別府市教育委員会学校教育課
臼杵市議会事務局
津久見市経営政策課
竹田市総務課
豊後大野市農業委員会事務局
由布市湯布院振興局地域振興課
日出町教育委員会社会教育課

中野 亜紀
中田 和哉
大井 智香子
高木 翔大
田北 裕哉
柴谷 孝俊
利光 一樹
鳥井田 侑真

